

第四十九回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪

「東海道の歴史を探る追加」

家発8:00 図8:02 バス発8:12 大田8:37
電発8:43 薄田東橋・梅屋敷9:14

作成平成21年6月古民家歴史部会員 原本

「Ⅲ」旧東海道・大森市場・梅屋敷・六郷の渡し場跡 10:10-10:15 参加:17名
9:12発 梅屋敷 雑色まで電移動

平成22年6月3日(木) 「集合;京急梅屋敷駅改札口」10時厳守 同刻出発します。

「行程;京急「梅屋敷駅」→(旧東海道道・浅草海苔問屋街・内川橋)梅屋敷跡→古川薬師・安養寺

→六郷神社→北野神社・舟渡し碑(京急「六郷土手駅」昼食場所特になし?)

1・旧東海道・※浅草海苔の始まり・浅草海苔問屋街

新大塚橋 → 川崎駅・幸町口まで歩く
(東口?)

先祖が、貝類や海草を採って食用にした時期は、縄文前期東京湾岸に住み付いた頃からと推定される。

浅草海苔の名前が生まれたのは慶長年間(1596～1614)と言われ、続いて品川海苔、葛西海苔の名も

現れた。寛永20年(1643)以後は、浅草海苔の名称が全国的に広がり、有名になった。大量生産が可能

になったのは、品川の漁業者が養殖方法を発明し、各地に伝わったからである。名の由来は、①品川

大森で採れた海苔を浅草へ持って行って製造したから。②浅草川(現隅田川)で採れたから。③大森の

野口五郎左衛門が浅草紙の作り方を工夫して海苔を作り、浅草海苔と名付けたから。海中にナラ・カン

等の粗朶(ワダ)ヒビを建てる養殖法発明、竹ヒビ活用、など使用から昭和2年(1927)海苔養殖網

(椰子の繊維使用)が発明された。その後、合成繊維網の出現で養殖法は大きく進歩した。しかし、品

川、大森の海で始まった海苔養殖は、全国に広まり昭和60年代には、生産量は3万t。乾海苔は百億

枚も生産されているが、大東京湾建設と言う目的の為に昭和37年を限りに、全面的に漁業権を放棄し、

翌38年にその幕を閉じた。旧東海道美原通りには、現在も海苔問屋が多く、海苔流通網の重要な拠点

の1つとなっている。

2・内川橋・旧東海道(美原通り)

昭和2年東海道は拡幅改修され、第1京浜国道が完成。その為往時の復員を比較的残している旧道は、

この美原(三原地区;南原・中原・北原に由来)通りと六郷地区の一部だけとなった。歌舞伎「浮世塚

比翼稲妻」(鶴屋南北作)で有名な、旅籠「駿河屋」のあった「駿河屋通り」は、内川橋から分かれる。

参考;海難供養塔(大森東1-27路傍);安政2年(1855)建立、神奈川に及ぶ魚介業者はじめ、町人・

武士・役者等約300名刻、東京湾岸でも屈指の規模。

3・大森海苔のふるさと館(無料開館9時～17時)休館第3月曜日、年末年始・海苔生産用具・海苔

「Ⅲ」旧東海道・大森市場・梅屋敷・六郷の渡し場跡

平成22年6月3日(木) 「集合；京急梅屋敷駅改札口」10時厳守 同刻出発します。

「行程；京急「梅屋敷駅」→旧東海道道・浅草海苔問屋街・内川橋→梅屋敷跡→古川薬師・安養寺→六郷神社→北野神社・舟渡し碑→京急「六郷土手駅」昼食場所特になし？」

1・旧東海道・※浅草海苔の始まり・浅草海苔問屋街

先祖が、貝類や海草を採って食用にした時期は、縄文前期東京湾岸に住み付いた頃からと推定される。浅草海苔の名前が生まれたのは慶長年間(1596～1614)と言われ、続いて品川海苔、葛西海苔の名も現れた。寛永20年(1643)以後は、浅草海苔の名称が全国的に広がり、有名になった。大量生産が可能になったのは、品川の漁業者が養殖方法を発明し、各地に伝わったからである。名の由来は、①品川大森で採れた海苔を浅草へ持って行って製造したから。②浅草川(現隅田川)で採れたから。③大森の野口五郎左衛門が浅草紙の作り方を工夫して海苔を作り、浅草海苔と名付けたから。海中にナラ・カシ等の粗朶(ソダ)ヒビを建てる養殖法発明、竹ヒビ活用、など使用から昭和2年(1927)海苔養殖網(椰子の繊維使用)が発明された。その後、合成繊維網の出現で養殖法は大きく進歩した。しかし、品川、大森の海で始まった海苔養殖は、全国に広まり昭和60年代には、生産量は3万t。乾海苔は百億枚も生産されているが、大東京湾建設と言う目的の為に昭和37年を限りに、全面的に漁業権を放棄し、翌38年にその幕を閉じた。旧東海道美原通りには、現在も海苔問屋が多く、海苔流通網の重要な拠点の1つとなっている。

2・内川橋・旧東海道(美原通り)

昭和2年東海道は拡幅改修され、第1京浜国道が完成。その為往時の復員を比較的残している旧道は、この美原(三原地区；南原・中原・北原に由来)通りと六郷地区の一部だけとなった。歌舞伎「浮世塚比翼稲妻」(鶴屋南北作)で有名な、旅籠「駿河屋」のあった「駿河屋通り」は、内川橋から分かれる。参考；海難供養塔(大森東1-27路傍)；安政2年(1855)建立、神奈川に及ぶ魚介業者はじめ、町人・武士・役者等約300名刻、東京湾岸でも屈指の規模。

3・大森海苔のふるさと館（無料開館 9 時～ 17 時）休館第 3 月曜日、年末年始・海苔生産用具・海苔造り体験企画）

20 年 4 月 6 日 OPEN。

9:25~30

4・梅屋敷跡（聖蹟蒲田梅屋敷公園）和中散売薬所跡

この付近は、古くから梅樹の栽培が盛んで、果実も品質も優秀であった。江戸の人々の嗜好品（香味や刺激を得る食物）であった梅干しや梅びしお（梅の肉をすりつぶして砂糖をまぶし加熱した嘗めもの）摺るの原料の殆どが、この付近から供給されたと言う。ことのほか見事な梅林で、江戸中期には既に、風流人も賞賛する名所であったと言う。

後に広重の江戸名所百景に画かれ、梅田の梅屋敷として有名になった。この梅屋敷は、文政初め頃（1818～30）東海道で和中散という道中常備薬を商う山本中佐右衛門の倅（せがれ）、久三郎が自家の庭つづきに近在から梅樹を集めて庭園を造り、同時に街道の休み茶屋を設け酒肴を出したのが始まりで、大層賑わったと言う。面積 3000 坪（9900 m²）で、街道の両脇にまたがり、見事な庭園であったと言う。しかし、大正 7 年（1918）京浜国道の拡幅の為東側を、同じ頃、京浜電車が西側を通る事になり、園地が縮小され、往時の姿を失った。

10:12~14

5・古川薬師（子育薬師）別称・安養寺（西六郷 2-33・真言宗智山派・医王山瑠璃光院・本尊五智如来・寺宝薬師如来坐像、釈迦如来坐像、阿弥陀如来坐像のヒノキ寄造彫願 3 如来坐像は平安後期作、都有形、薬師堂安置・古川薬師堂道標・※銀杏折取禁止制碑・富士講碑 100 近い講紋、講名刻・仏像群、本尊大日如来像十王像等 35 軀が区指定文化財）

和銅 3 年（710）行基の草創、光明皇后（701～60）によって七堂伽藍寄進され、再興開山は永伝（1568 没永禄）と伝う。薬師堂は正徳 6 年（1716）の建立。境内大銀杏乳根が垂れ下がっている事から、乳の出ない母親が乳が出ると言われ、子育薬師とも言われる。※銀杏乳根を切り取る人が現れ同禁止制碑元禄 3 年（1690）安養寺 5 世栄弁石碑建立。

6・宝幢院（おどろいん・真言宗智山派・大綱山光明寺・本尊、阿弥陀如来大日如来・寺宝、銅鐘伝延宝 9 年鑄物御大工椎名伊予守良寛多摩川河原で鑄造重文、古文書宝幢院文書都指定文化財非公開・阿弥陀如来立像非公開区指定文化財、梵鐘、水船＝手水石区以上指定文化財）

開山は行観覚融（保元元年 1156 寂）。享禄 5 年（1532）北条氏より寺領寄進の虎の御朱印章が下付さ

れ同家4代のものと、徳川家康以下累代将軍の御朱印章現存。

10:33~35

7・東陽院（真言宗智山派・雲山安楽寺・本尊如意輪観世音旧本尊大日如来と言う・釈迦如来立像非公開、観世音菩薩立像以上区指定文化財）

開基栄尊（寛永21年1644入寂石碑）。弘法大師坐像及び厨子区指定文化財非公開；寛永12年（1635）に、栄長が願主となり、道泉、妙蓮が施主造立。釈迦如来立像；寛永12年開基栄尊の代に、妙蓮が施主造立。観世音簿幸生立像；正保3年（1646）竹之内長右衛門夫妻が願主造立。

10:37~38

8・宝珠院（真言宗智山派・本尊阿弥陀如来聖観世音菩薩・寺宝僧形八幡大菩薩涅槃像軸）

天喜2年（1054）源頼義東征の帰途、八幡宮を建てその傍らに1宇を建立、御幡山宝珠院建長寺と号した。承応2年（1653）中興開山弁栄が再興、以来代々八幡宮を司官した。徳川家朱印地十石を寄進、葵紋許された。

10:40~48

9・六郷神社（祭神応神天皇・例祭6月3日・神紋葵・社宝神獅子頭源頼朝公奉納、献額由井正雪筆、太刀頭一文字吉家作・1月7日流鏝馬・狛犬貞享2年1685六郷中町願主石工三右衛門刻・獅子舞・八幡塚）

天喜5年（1057）、源頼義・義家が奥州平定のみぎり、当地の老杉に源家什宝の白旗をかけ遥かに石清水八幡に対し戦勝を祈願、凱旋後奉賽のため当社を建立した。文治年中（1185～90）、頼朝が社殿を再営、当社社宝となった神獅子頭及び浄水石を寄進。又梶原景時に命じて石の太鼓橋を架設せしめた。後、徳川家康公より朱印18石を受け、葵御門の使用を許された。明治初期郷社に列す。

10:58~11:02

10・北野神社（祭神菅原道真・例祭5月25日・社宝獅子降魔狗運慶作、絵馬富岡鉄斎外史、鳥居額近衛家熙卿キョウ？）

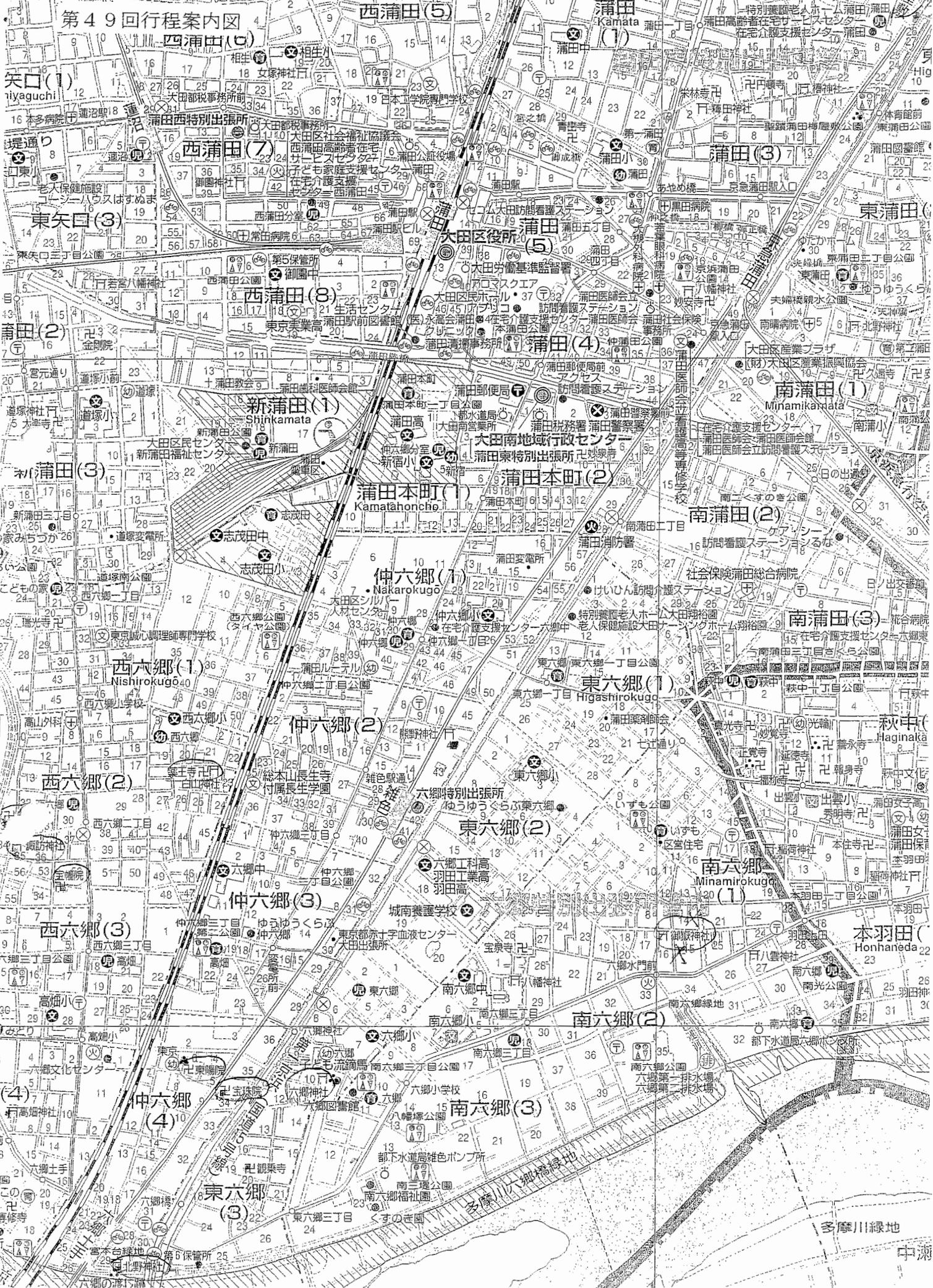
寿永元年（1182）、源頼朝公が東国征討の際、小石川の江湖に船を止め難風をしのぐ折り、夢中に衣冠光顔の人が牛に乗って現れ、武運満足すれば吾に小社を営報すべし。と託してかくられた。公が目覚めて見れば牛と見たのは盤石であった。本国に帰り同年頼家誕生、翌年平氏敗走、神徳を感じて、奉賽として当社を建立したと言う

又、8代将軍吉宗の乗馬が暴走したとき、この天神が落馬を止めたと言う伝説がある。境内に六郷の渡し場碑。

船渡し碑

慶長 5 年 (1600) 六郷橋を架けて以来しばしば洪水で流され、17 世紀末以来渡しにかえられた。隣接する宮元台緑地には大正 14 年 (1925) に架けられた鉄橋アーチが残されている。明治 7 年 (1874) 木造橋がかけられるまで、旅人は現在の新六郷橋北詰めの約 150 m 下流から渡しに乗り、橋南詰め (川崎側) の約 50 m 下流の船着場で降りた。堤防上にある船渡しの碑は、明治元年 (1868) 明治天皇が初めて江戸城へ入るために此の地に到着したとき、多摩川に船を並べ、その上に板を並べて渡ったことを記念したものである。

六郷土手駅 11:05 電車 11:12 (川崎で快速)
川崎国分 11:18 上野 11:35 着
上野バス停 11:40 大船場 12:00 着



第49回行程案内図